

## 2022年度 授業評価アンケート

看護学科 FD・SD委員会

この学生による授業評価アンケートは、本学科におけるよりよい授業と教育環境を目指して、各科目担当教員が授業を振り返り改善するためのカリキュラム上の資料とするものです。広く学生の皆さんから意見を取り入れるために、ご協力をお願いします。

このアンケートは成績評価等に一切影響ありません。なお、学生個人の回答を教員は、閲覧できません。アンケートの回答は、個人が特定できないようにして集計します。

\*教員が複数で担当の場合は、概ねの状況で判断し、特記事項があれば、自由記載に記述して下さい。

以下の質問について、あなたにあてはまると思う番号を選択して下さい。

	非常に そう思う	ある程度 そう思う	あまり そう思わない	まったく そう思わない	該当しない
<b>1. 授業の改善計画の実施について</b>					
1) 改善計画の実施は適切でしたか	4	3	2	1	
<b>2. 授業の技法について</b>					
1) 視聴覚教材の使用は適切でしたか	4	3	2	1	
2) 授業のテキストや資料の活用は適切でしたか	4	3	2	1	
3) 授業内容について、教員の説明はわかりやすかったですか	4	3	2	1	
4) 話し方や声の大きさは適切でしたか	4	3	2	1	0
5) 学生が質問や意見を述べられるように配慮していましたか	4	3	2	1	
6) 質問や要望への対応は親身で適切でしたか	4	3	2	1	
<b>3. 授業の内容について</b>					
1) 毎回の授業のねらいは明確でしたか	4	3	2	1	
2) この授業を受けて、関連する分野の理解と関心が深まりましたか	4	3	2	1	
3) 授業内容は理解できるものでしたか	4	3	2	1	
4) 授業を受けて満足感がありましたか	4	3	2	1	
5) 成績評価の方法は適切だと思いますか	4	3	2	1	
6) この科目は該当DPを達成できる内容でしたか	4	3	2	1	
<b>4. あなた自身の学習態度について</b>					
1) 講義要項(シラバス)を見ましたか	4	3	2	1	
2) 意欲的に授業に参加しましたか	4	3	2	1	
3) 授業を受けるマナー(教員とのメールのやり取りを適切に行うこと、遅刻・中座・居眠り・飲食・私語・携帯電話・内職等をしないこと)を守れましたか	4	3	2	1	
4) 授業時間以外に、この授業の各単元に対して、準備学習(課題、予習・復習等)をどの程度行いましたか	60分以上	40-59分	20-39分	0-19分	
<b>5. 授業でのICTの活用状況について</b>					
1) 教員は、授業でICTを効果的に活用していましたか	4	3	2	1	
2) あなたは、授業でトラブルなくICTを活用できましたか	4	3	2	1	
3) あなたは、ICTを用いて効果的に学習できましたか	4	3	2	1	

今後の改善のために、教員の学生への対応(教員のハラスメントの有無や学生の私語等への対応を含む)で気がついたことがあれば具体的に状況がわかるように記載してください。

科目の内容、担当教員について等、気がついたことを自由に記載してください。

## 2022年度 看護学科授業評価の実施報告

FD・SD委員会

e-learning システムを利用した学生による授業評価を実施した。前期科目は、全 52 科目の回答率は結果を受けて担当教員は授業改善に取り組んでいる。本年度は、開講された全科目において学生による授業評価を実施した。また、本年度は、昨年度に引き続き、授業方法が遠隔と登校での対応であったが、対面講義も増えた。また、授業評価を通年で同 URL から回答できるようにし、教員には実施率を挙げるために講義内で授業評価時間を確保するよう依頼した

評価項目は本年度より新規に追加し、計 20 項目とした。追加した項目は 1. 授業の改善計画の実施に関する内容で、昨年度の科目責任者からの講評と改善計画を閲覧し、受講してその改善計画の実施が適切だったか、という設問だった。以降は例年と同様で、2. 授業の技法に関する 6 項目、3. 授業の内容に関する 6 項目、4. 自身の学習態度に関する 4 項目で、4 項目のみ準備学習の時間数を回答する項目とした。5. 授業での ICT の活用状況に関する 3 項目とした。

回答項目は、「1: まったくそう思わない」、「2: あまりそう思わない」、「3: ある程度そう思う」、「4: 非常にそう思う」の 4 段階で評価した。4. の準備学習に要した総時間を回答する項目は、「1: 0-19 分」、「2: 20-39 分」、「3: 40-59 分」、「4: 60 分以上」とした。

自由回答項目では、教員のハラスメントを含めた教員の学生への対応や科目の内容・担当教員に関する内容について、自由に記載できるようにした。

### I. 学生の実施状況

科目責任者に対して、授業評価依頼文書に科目の最終授業日に授業評価実施を依頼した。回答率を教育センターに確認し、適宜、学生に対して e-portfolio と e-learning のお知らせ機能から授業評価の実施依頼を行った。メーリングでの授業評価回答依頼の配信では回答率が上がらなかった。登校講義やオリエンテーション、定期試験終了後に、対面で授業評価の時間を取り、回答を促した。

その結果、2022 年度の学生による授業評価への回答率の平均は、前期 52 科目で 73%、後期 74 科目（うち 1 科目は選択者 0 名で実質 73 科目）41%、年間では全 126 科目 57% の回答率だった。2021 年度の授業評価実施率が 50% だったので、2022 年度は僅か 7% ではあったが増加した。

学年別の回答率の平均は、1 年生の前期 18 科目 70%、後期 38 科目 50%、年度 56 科目 60%、2 年生の前期 17 科目 64%、後期 22 科目 31%、年度 39 科目 47%、3 年生の前期 15 科目 91%、後期 2 科目 36%、年度 17 科目 64%、4 年生の前期 2 科目 45%、後期 11 科目 44%（1 科目は選択者なし）、年間 13 科目 45% だった。2 年生の授業評価への協力が低迷していたため、2023 年度の授業評価では学年クラス委員と協働し、回答率を挙げるためのアナウンスを行いつつ、授業評価対象科目の担当教員は講義内に授業評価時間を確保していただけるよう協力を依頼する。

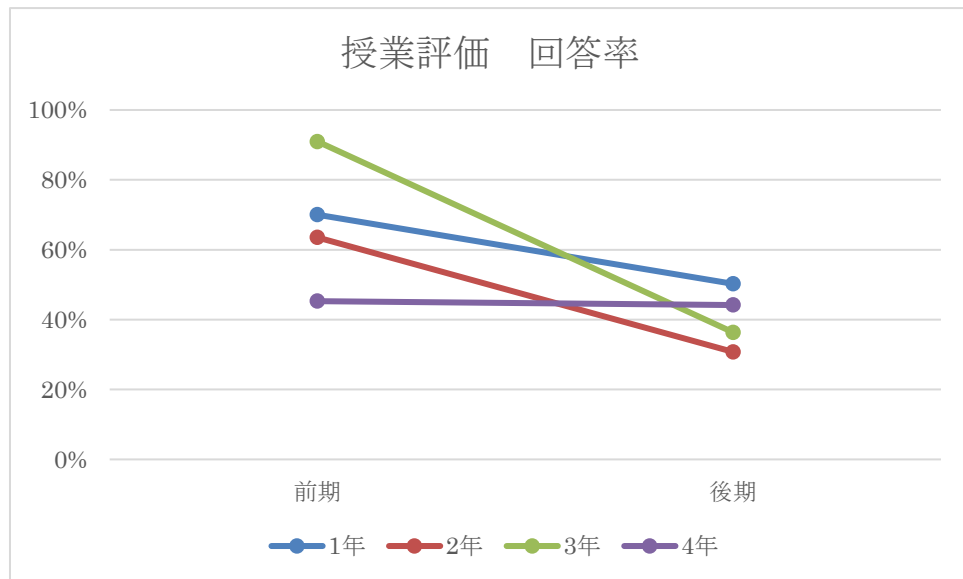


図1 2022年度 学年別 授業評価回答率 (前期・後期)

## II. 評価結果 \* ( )内は2021年度

### 1. 大項目

全科目の評価では、前期 52 科目 3.52, SD=0.63 (3.49, SD=0.66), 後期 73 科目 3.51, SD=0.66 (3.47, SD=0.69)だった。昨年度より学生の評価は向上した。

項目別では、1.授業の改善計画の実施については、前期 3.62, SD=0.54, 後期 3.5, SD=0.59 で、前年度の授業改善計画が概ね反映された講義だったとの評価だった。本年度からの回答項目であり、次年度以降の推移を確認していく必要がある。

2.授業の技法については、前期 3.54, SD=0.52 (3.49, SD=0.66), 後期 3.54, SD=0.57 (3.51, SD=0.62)だった。昨年度より学生評価は向上した。

3.授業の内容については、前期 3.56, SD=0.56 (3.51, SD=0.57), 後期 3.54, SD=0.57 (3.46, SD=0.65)だった。昨年度より学生評価は向上した。

4.自身の学習態度については、前期 3.38, SD=0.82 (3.38, SD=0.83), 後期 3.33, SD=0.92 (3.32, SD=0.88)だった。昨年度と同等の学生評価だった。

5.授業での ICT 活用状況について、前期は 3.6, SD=0.55 (3.58, SD=0.56), 後期は 3.61, SD=0.53 (3.58, SD=0.57) だった。昨年度と同等の学生評価だった。

#### 1) 科目区分別評価

教養教育科目の平均値は、前期が 3.55, SD=0.65, 後期が 3.48, SD=0.67 (2021年度は 3.4, SD=0.72) で評価が高く、昨年度より学生評価は更に向上した。

看護専門科目の平均値は、前期が 3.5, SD=0.61, 後期が 3.52, SD=0.65 (2021年度は 3.55, SD=0.61) で評価が高く、昨年度と同等の学生評価だった。

項目別では、1.授業の改善計画の実施については、教養教育科目で前期が 3.62, SD=0.54, 後期が 3.52, SD=0.58 で、後期の科目でより改善計画の実施が行われていると学生は評価した。看護専門科目で前期が 3.48, SD=0.57, 後期が 3.5, SD=0.59 で、教養教育科目と同様に、後期の科目でより改善計画の実施が行われていると学生は評価した。

2. 授業の技法については、教養教育科目で前期が 3.59, SD=0.58 (3.37, SD=0.76), 後期が 3.53, SD=0.55 (3.43, SD=0.72), 看護専門科目で前期が 3.51, SD=0.58 (3.57, SD=0.56), 後期が 3.54, SD=0.58 (3.54, SD=0.57) で、科目区分による評価は大差なかったが、前期科目の教養教育科目の授業技法について高評価だった。本年度と昨年度の比較では、看護専門科目は大差なかったが、教養教育科目は本年度が高評価だった。

3. 授業の内容については、教養教育科目で前期が 3.61, SD=0.56 (3.43, SD=0.62), 後期が 3.53, SD=0.56 (3.43, SD=0.71), 看護専門科目で前期が 3.52, SD=0.57 (3.58, SD=0.52), 後期が 3.55, SD=0.58 (3.48, SD=0.62) で、前期科目の教養教育科目の授業内容について高く評価された。本年度と昨年度の比較では、教養教育科目と看護専門科目でどちらも本年度は高評価だった。

4. 自身の学習態度については、教養教育科目で前期が 3.34, SD=0.89 (3.3, SD=0.84), 後期が 3.23, SD=0.98 (3.22, SD=0.95), 看護専門科目で前期が 3.41, SD=0.77 (3.45, SD=0.8), 後期が 3.37, SD=0.89 (3.36, SD=0.84) で、看護専門科目で自主的な学習を積極的に執っていたと評価された。本年度と昨年度の比較では、教養教育科目と看護専門科目のどちらも同等の評価だった。

5. 授業での ICT の活用については、教養教育科目で前期が 3.65, SD=0.56 (3.54, SD=0.61), 後期が 3.58, SD=0.55 (3.54, SD=0.66)。看護専門科目で前期が 3.57, SD=0.54 (3.6, SD=0.52), 後期が 3.62, SD=0.52 (3.6, SD=0.52) で看護専門科目でより ICT を活用したと評価された。これは VR 教材などの活用なども含め、機会が多く設けられたことも要因として考えられる。本年度と昨年度の比較では、看護専門科目は大差なかったが、教養教育科目は本年度が高評価だった。

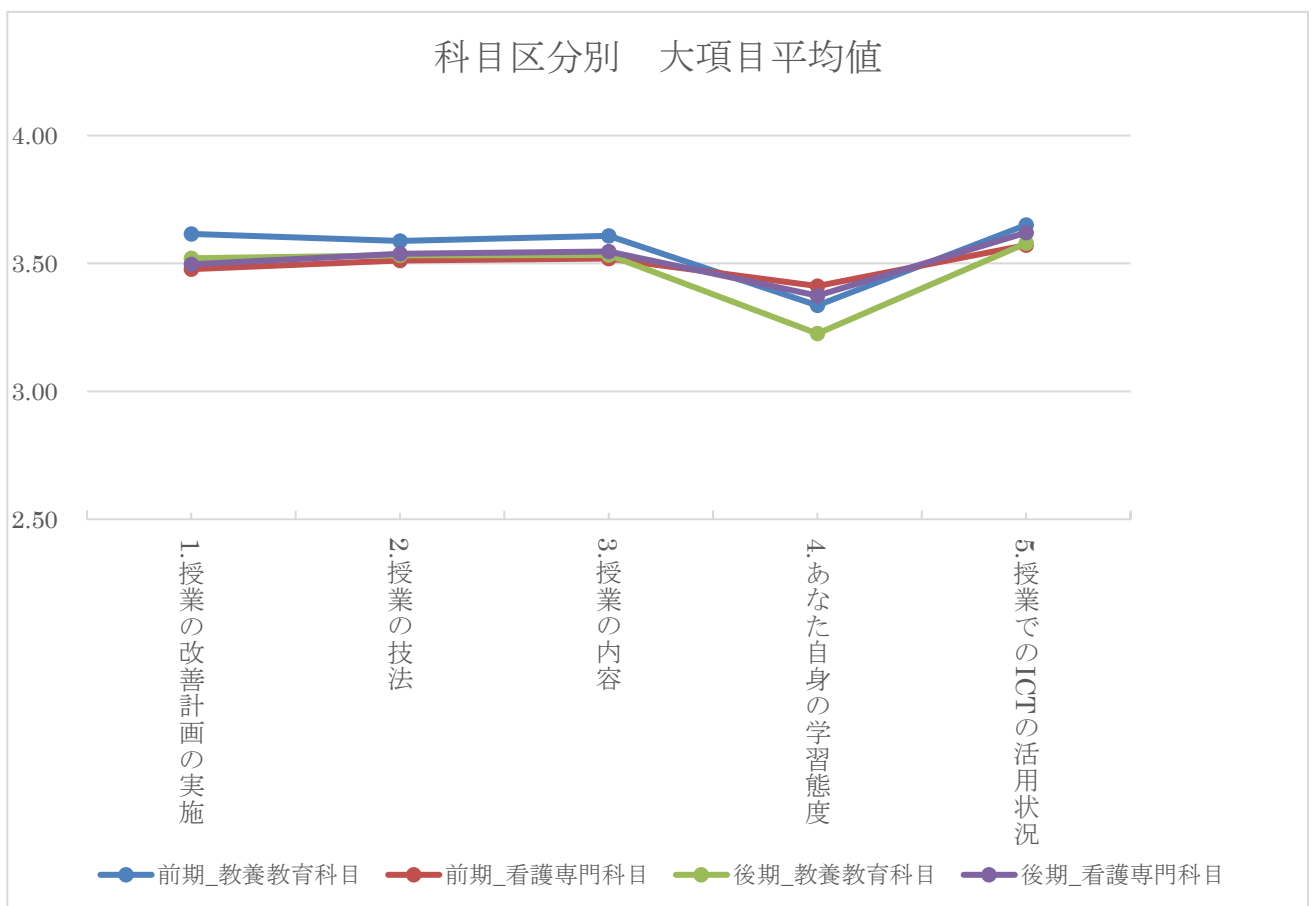


図2 2022年度目 科目区分別 大項目平均

## 2) 学年別評価

1年生の平均値は、全体が前期 3.59, SD=0.56 (3.49, SD=0.72), 後期 3.5, SD=0.66 (3.57, SD=0.69) だった。授業の改善計画については、前期 3.63, SD=0.51, 後期 3.54, SD=0.55 だった。授業の技法については、前期 3.62, SD=0.56 (3.5, SD=0.71), 後期 3.55, SD=0.54 (3.61, 0.63), 授業の内容については、前期 3.66, SD=0.52 (3.54, SD=0.61), 後期 3.56, SD=0.55 (3.62, SD=0.62), 自身の学習態度については、前期 3.37, SD=0.93 (3.33, SD=0.88), 後期 3.25, SD=0.97 (3.38, SD=0.89), 授業での ICT 活用については、前期 3.64, SD=0.57 (3.56, SD=0.64), 後期 3.58, SD=0.53 (3.68, 0.55) だった。

2年生の平均値は、全体が前期 3.62, SD=0.59 (3.46, SD=0.65), 後期 3.55, SD=0.66 (3.39, SD=0.69) だった。授業の改善計画については、前期 3.65, SD=0.53, 後期 3.54, SD=0.57 だった。授業の技法については、前期 3.66, SD=0.53 (3.44, SD=0.69), 後期 3.57, SD=0.6 (3.45, 0.63), 授業の内容については、前期 3.66, SD=0.53 (3.46, SD=0.57), 後期 3.59, SD=0.59 (3.36, SD=0.67), 自身の学習態度については、前期 3.43, SD=0.79 (3.41, SD=0.75), 後期 3.38, SD=0.89 (3.25, SD=0.86), 授業での ICT 活用については、前期 3.73, SD=0.46 (3.58, SD=0.52), 後期 3.67, SD=0.51 (3.54, 0.56) だった。

3年生の平均値は、全体が前期 3.37, SD=0.62 (3.52, SD=0.62), 後期 3.29, SD=0.57 (3.44, SD=0.57) だった。授業の改善計画については、前期 3.34, SD=0.57, 後期 3.08, SD=0.57 だった。授業の技法については、前期 3.37, SD=0.6 (3.54, SD=0.58), 後期 3.23, SD=0.57 (3.45, 0.54), 授業の内容については、前期 3.34, SD=0.75 (3.54, SD=0.53), 後期 3.56, SD=0.56 (3.29, SD=0.6), 自身の学習態度については、前期 3.37, SD=0.93 (3.43, SD=0.84), 後期 3.25, SD=0.97 (3.56, SD=0.57), 授業での ICT 活用については、前期 3.47, SD=0.57 (3.59, SD=0.51), 後期 3.44, SD=0.55 (3.57, 0.49) だった。

4年生の平均値は、全体が前期 3.42, SD=0.61 (3.37, SD=0.62), 後期 3.47, SD=0.65 (3.37, SD=0.68) だった。授業の改善計画については、前期 3.44, SD=0.55, 後期 3.37, SD=0.69 だった。授業の技法については、前期 3.37, SD=0.56 (3.38, SD=0.52), 後期 3.46, SD=0.59 (3.41, 0.58), 授業の内容については、前期 3.47, SD=0.55 (3.44, SD=0.51), 後期 3.46, SD=0.59 (3.38, SD=0.61), 自身の学習態度については、前期 3.41, SD=0.79 (3.17, SD=0.87), 後期 3.46, SD=0.83 (3.27, SD=0.91), 授業での ICT 活用については、前期 3.47, SD=0.58 (3.47, SD=0.51), 後期 3.58, SD=0.55 (3.44, 0.61) だった。

1年前・後期, 2年前・後期, 4年前・後期は概ね 3.5 前後の高評価であり, 本年度と昨年度を比較しても大差なかった。3年生は昨年度から継続評価している授業の技法, 授業の内容, 自身の学習態度, ICT 活用全てにおいて, 本年度は昨年度に比べて低評価だった。3年後期は評価科目数が少ないにもかかわらず, 積極的な学習が必要だったと評価する学生が多く, 主体的に取り組んでいる一方で, 授業評価としては 3.0 以上の肯定的評価ではあるものの, 評価が低い傾向にあった。学年の特徴であるかは継続評価を行っていく必要がある。

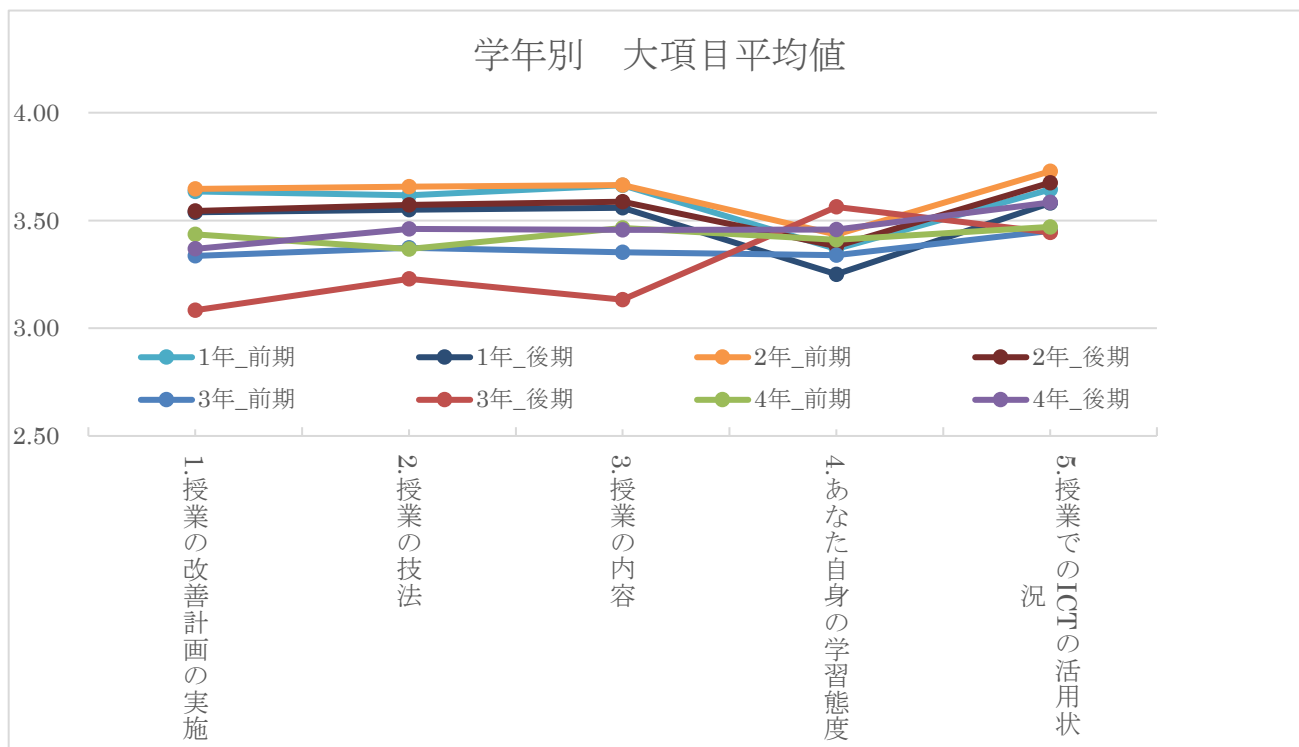


図3 2022年度 学年別 大項目平均

## 2. 小項目

### 1) 科目区分別評価

教養教育科目および看護専門科目ともに、全学年および各学年の平均値と同様に、平均値が3.0以上であった小項目は20項目中19項目で、3.5前後の高評価だった。平均値が3.0以下であった小項目は、3. 自身の学習態度の「授業時間以外に、この授業の各单元に対して、準備学習（課題、予習、復習等）をどの程度行いましたか」の1項目だった。これは、学習時間を4件法で確認しており、教養教育科目で前期2.13, SD=1.17, 後期2.39, SD=1.08, 看護専門科目で前期2.57, SD=1.21, 後期2.95, SD=1.1の回答であり、「2: 20-39分」若しくは「3: 40-59分」と回答した学生が最も多かったが、「1: 0-19分」もしくは「4: 60分以上」と回答した学生も多く存在した。

### 2) 学年別評価

全学年および1年生、2年生、3年生、4年生の各学年において、平均値が3.0以上であった項目は、20項目中19項目で、3.5前後の高評価だった。平均値が3.0以下であった項目は、3. 自身の学習態度の「授業時間以外に、この授業の各单元に対して、準備学習（課題、予習・復習等）をどの程度行いましたか」の1項目でのみだった。これは、学習時間を4件法で確認しており、全体では前期2.72, SD=1.13, 後期2.44, SD=1.22, 1年生は前期2.35, SD=1.15, 後期2.23, SD=1.12, 2年生は前期2.8, SD=1.04, 後期2.48, SD=1.16, 3年生は前期3.0, SD=1.1, 後期3.83, SD=0.37, 4年生は前期2.72, SD=0.99, 後期2.84, SD=1.19の回答であり、3年生は前・後期ともに「3: 40-59分」若しくは「4: 60分以上」と回答していたが、1年生、2年生、4年生では、「2: 20-39分」若しくは「3: 40-59分」と回答した学生が最も多かったが、「1: 0-19分」もしくは「4: 60分以上」と回答した学生も多く存在した。

### 3. 総括

本年度の授業評価として、回答率が目標値の 80%を越えなかったことが最大の課題である。一部の学生の授業評価は反映されても、全学生からの回答を得られたわけではなく、次年度への有益な授業改善計画が立案できているとはいいがたい。まずは、2023 年度は、カリキュラム評価および、アセスメントポリシーの重要項目としての授業評価の必要性について学生に伝え、評価回答率を目標値 80%の到達を目指す必要がある。2023 年度より、学年クラス委員に授業評価の回答に関わる委員との協働が役割に加わった。その成果を評価するとともに、科目責任者には講義内での授業評価回答時間を確保してもらえよう依頼する。

本年度より、学生の授業評価の入力時に、前年度の教員による授業の改善計画が閲覧できるシステムを構築した。他の 4 項目においても、小項目のほとんどで 3 ないしは 4 の項目が選択されており、概ね授業を高評価している。授業改善計画の確認を踏まえた本年度授業評価が実施できるようになったため、次年度以降も比較検討していくとともに、学生にも重ねて説明をしていく。

科目責任者による授業評価結果に基づく講評と授業改善計画は、126 科目中 1 科目開講しなかった科目を除く 125 科目のうち、前期 1 科目、後期 8 科目以外は回答をいただいた。授業評価の低得点に対する丁寧な講評と次年度への授業改善の計画を示していただいた。次年度は回答方法の具体例などを御依頼文に加筆し、3-4 週間の余裕ある回答期日を設定して、科目責任者へ依頼し、円滑な運用を目指す。

授業評価科目数が 126 科目で、教員への e-learning 上での授業評価講評と次年度の改善計画の入力を通知するための送付作業も負担が増加している。学生からの授業評価への回答率を上げるために、回答者数を教育センターに確認し、そのうえで学生へリマインド連絡をする回数も学年毎で 3-4 回実施していることや、教育センターへ学生が授業評価を回答するための設定、科目責任者が結果を閲覧し講評と授業改善計画を入力・回答するための設定と回答結果の出力、授業評価結果の集計作業の外注依頼作業など、委員は教育センターと外注業者との作業の往復に介在するため、多くの煩雑な業務の進行を確認しながら、誤りない正確な業務を遂行しなければならない状態にある。その状況を是正するための提案としては、授業評価の行程を管理し運用し、科目責任者への講評授業評価回答依頼と結果の出力を含めて、外注へ依頼することを提案したい。後期の通年科目が 2 月迄開講すると、授業評価の回答結果の全出力も遅れ、年度内での授業評価結果の開示は困難な状況もあり、教員が授業評価内容を点検評価に活用できる時期は遅れている。様々な状況を踏まえた抜本的な改革が必要な状況にある。